

**製品名: Ref-1 (アセチル Lys6) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab06253**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	アセチル化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	35kDa

**抗原情報**

遺伝子名	APEX1 APEX1; APE; APE1; APEX; APX; HAP1; REF1; DNA-(apurinic or apyrimidinic site) lyase; APEX
別名	nuclease; APEN; Apurinic-apyrimidinic endonuclease 1; AP endonuclease 1; APE-1; REF-1; Redox factor-1
遺伝子 ID	328.0
SwissProt ID	P27695
免疫原	抗血清は、ヒト APE1 由来の Lys6 のアセチル化部位周辺の合成アセチルペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50

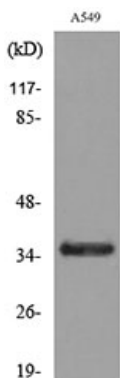
## 背景

無プリン/無ピリミジン (AP) 部位は、DNA 分子中に、自発的な加水分解、DNA 損傷因子、または特定の異常塩基を除去する DNA グリコシラーゼによって頻繁に発生します。AP 部位は、正常な DNA 複製を妨げる可能性のある変異誘発前の病変であるため、細胞にはこのような部位を識別して修復するシステムが含まれています。クラス II AP エンドヌクレアーゼは、AP 部位の 5'側のホスホジエステル骨格を切断します。この遺伝子は、ヒト細胞の主要な AP エンドヌクレアーゼをコードしています。この遺伝子にはスプライスバリエーションが見つかり、すべて同じタンパク質をコードしています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]触媒活性: DNA の無プリンまたは無ピリミジン部位の 3'側の C-O-P 結合は、 $\beta$  脱離反応によって切断され、3'末端の不飽和糖と末端の 5'リン酸を含む生成物が残ります。機能: in vitro で酸化的 DNA 損傷を修復します。細胞致死の防御および変異の抑制に関与している可能性がある。電離放射線およびブレオマイシンによって生じた DNA 鎖切断の 3'末端からブロッキング基を除去する。類似性: DNA 修復酵素 AP/exoA ファミリーに属する。サブユニット: モノマー。SET 複合体の構成要素であり、SET、ANP32A、HMGB2、NME1 も含まれる。

## 研究分野

塩基除去修復

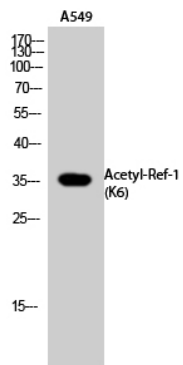
## 画像データ



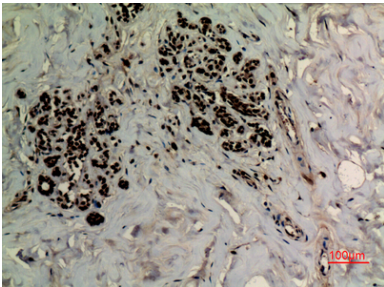
APE1 (アセチル-Lys6) 抗体を用いた A549 細胞溶解液のウエスタンブロット解析。



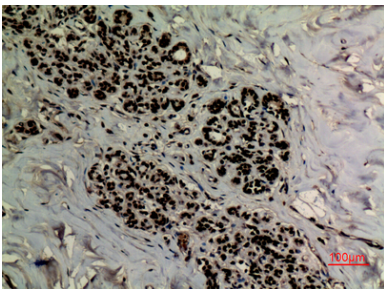
アセチル Ref-1 (K6) ポリクローナル抗体を用いた A549 細胞のウエスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈した。



アセチル Ref-1 (K6) ポリクローナル抗体を用いた A549 細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体は 1:20000 に希釈した。



パラフィン包埋ヒト乳房の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋ヒト乳房の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された